

入札監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札監視委員会の平成22年度第3回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 平成22年11月24日(水) 14:00～16:00

会 場 北九州市庁舎5階 特別会議室A

平成22年度 第3回 北九州市入札監視委員会 議事概要

1 会議名

平成22年度第3回 北九州市入札監視委員会

2 開催日時・会場

開催日時 平成22年11月24日(水) 14:00~16:00

会場 北九州市庁舎5階 特別会議室A

3 出席委員

阿野 寛之、柿内 よし子、菊池 裕子、高橋 衛、藤田 賢一郎

4 議事

(1) 平成22年度第2四半期の工事契約状況等の報告

次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 平成22年度第2四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、平成22年度第2四半期に契約をした工事の中から、高橋委員が10件(契約室契約分10件(内2件は、水道局分))を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 電気計装設備について、モーター等には定価があるのか。

(答) 受注生産であり、専門業者からの見積りを参考にして予定価格を積算している。

(問) 電気計装設備の増設工事について、当初設備を製作したメーカーと随意契約せず、指名競争入札にしたのはなぜか。

(答) 他のメーカーの製品でも対応可能と判断し、原則どおり競争入札とした。

(問) 機械設備の工事を極端な低価格で落札する場合、設置後のメンテナンスで利益を得ようとしているのではないかとのことだが、維持管理費用が割高になることが懸念される。工事費用だけでなく、その後の維持管理費用も併せてチェックすべきではないか。

(答) 維持管理分の契約についても、適正な予定価格を見積って入札・契約を行っており、極端に割高になるようなことは無いと考えられる。

(問) 他の応札者の半額以下となるような低価格入札で、施工は大丈夫か。

(答) 設備工事の場合、機器費の割合の高いものは、最低制限価格を設定していないため、かなり低価格で応札してくる場合が見られるが、品質が

不良であるといったことは無い。

業界としては、低価格で応札する傾向が強まっており、内部的には厳しい状況になっているため、最低制限価格を設定してほしいとの声も上がっている。

設備工事についての最低制限価格の運用については、他の自治体の例も参考にしながら研究していきたいと考えている。

(問) 機械器具設置工事の指名業者の選定基準は何か。

(答) 格付が無いので、工事の難易度、規模等に応じて、経審の総合評定値や完工高等を勘案して選定している。

(問) 小倉駅北口ペDESTリアンデッキの本体工事と上屋工事を別々に発注しているが併せて一緒に発注できなかったのか。

(答) 小倉記念病院のオープンに間に合うよう工事を完了させる必要があったが、上屋の設計ができておらず、本体だけの発注となった。

(問) 造園工事については、従来から他の工種に比べて比較的落札率が高い傾向にあったようだが、高額な案件の方が落札率は高くなるのか。

(答) 造園工事についても少しずつ落札率が下がってきており、今年度上半期は平均88.54%であった。今期については、指名競争案件に比べて一般競争入札(金額の高い案件)の方が落札率は高くなっている。

(問) 総合評価方式の入札において、技術点が0点の場合の取扱いはどうなるのか。

(答) 必要な技術資料が提出されていれば、技術点が0点であっても失格とはならない。

(問) 最低制限価格をわずかに下回った業者が失格となり、1割程高い応札をした業者が落札者になるのは問題があるのではないか。

(答) 最低制限価格を少額下回っただけで適正な履行の妨げになるのかといった疑問はある。しかし、工事の品質を確保し、また、業者の適正な利益を確保するため一定の基準に従って最低制限価格で線を引くことはやむを得ないものと考えている。また、落札率が高いといっても適正な予定価格の範囲内であり、どこかで割り切らなければ仕方が無いものと考えている。

1 次回の工事の抽出は、菊池委員が担当することとなった。

2 次回の委員会は、平成23年2月17日(木)に開催することとなった。